

外来新患診療体制表 平成23年7月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
消化器科		●	●	●	●	●
内科	血液内科	●	●	●	●	●
	化学療法科	●		●		
呼吸器科		●	●	●	●	●
外科	乳腺科	●			●	
	外科		●	●		●
整形外科			●		●	●
脳神経外科		●		●		●
頭頸科(耳鼻いんこう科)		●	●		●	
形成外科			●			●
婦人科		●	●		●	
泌尿器科		●		●	●	
放射線科		●	●	●		●
緩和医療科				●		●

診療受付時間：午前8時30分～11時00分 TEL (022)384-3151(代) FAX (022)381-1169

地域医療連携室だより

Vol.14

平成23年7月発行 地域医療連携室

宮城県立がんセンター



ご挨拶



地方独立行政法人 宮城県立病院機構
宮城県立がんセンター
病院長 片倉 隆一

大震災から4か月が過ぎようとしています。現在も厳しい環境の中、地域住民のため奉仕されている医療関係者の皆様には、体調に充分留意されご活躍いただきますようお願い申し上げます。

さて、宮城県立がんセンターは前回ご報告しましたように独法化し、地方独立行政法人 宮城県立病院機構 宮城県立がんセンターになりました。そして、7月1日付で私が病院長に就任し、西條 茂総長兼病院長の病院長が解かれることになりました。また、同時に副院長に消化器科の小野寺博義、医療局長に外科の藤谷恒明がそれぞれ就任いたしました。

当センターで進めている事業の中から幾つか紹介させていただきます。

現在進行中で皆様の医療機関へお願いしておりますのが、がん地域連携パスです。がん診療連携拠点病院を中心に策定された診療計画に沿って地域医療機関との連携で、がん患者さんに切れ目のない医療が提供されることを目的に行われるものです。当センターでは医療局長の藤谷先生が大学病院とともに実行に向け作業中ですが、貴院にお世話になることがあると思いますので、宜しくお願い申し上げます。

がん治療の中で、時々ドラッグラグの問題が指摘されます。この問題を解決するために国立がん研究センターが中心になり、全国の都道府県がん診療連携拠点病院さらには地域がん診療連携拠点病院を活用し、がんの臨床研究を大規模に行うことで、抗癌剤などの採用までの期間を短縮しようとする事業が始まっています。この臨床研究に参加する条件として、CRCやデータマネージャーなど治験管理が十分可能な体制があることで、訪問調査があり参加可能かどうかチェックされます。この事業には、厚生労働省、文部科学省、経済産業省、内閣府が参加しサポートする体制になっています。当センターも当初から協議会に参加し、ここで企画された臨床研究に積極的に参加していく予定です。

当センターでは、がんの個別化治療(テーラーメイド医療)を意欲的に行っております。これは当センターの研究の協力もあり、患者さんからのがん組織を遺伝子学的に解析することで可能となります。一部はすでに診療報酬上認可されたものもありますが、当センターではさらに詳細な分析を行うことで、新たな治療法の開発に結び付けるべく研究しております。

今回の地域医療連携室便りは、消化器科とボランティア活動について紹介をさせていただきました。消化器科では、各臓器別に最新の治療を数多く行っており、さらに先進的治療法の確立に向け活動しております。また当センターにおけるボランティア活動は、10周年を迎えました。その活動内容はさきわめて多彩で、全国的にみても充実していると思っておりますし、患者さんにとってもまさに心の「ひだまり」になっております。

宮城県立がんセンターは、地域の先生方とともにがん医療を進めていくことが大切と考えておりますので、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

宮城県立がんセンターセミナーのご案内

9月

演題 幹細胞制御とがん—がんの治療抵抗性克服を目指して—
講師 平尾 敦 先生
金沢大学がん進展制御研究所・がん幹細胞研究プログラム
遺伝子・染色体構築研究分野 教授
日時 平成23年9月16日(金) 17:30～19:00

10月

演題 正常およびがん幹細胞の異同について
講師 須田 年生 先生
慶応義塾大学医学部 坂口光洋記念講座 発生・分化生物学講座 教授
日時 平成23年10月7日(金) 17:30～19:00

11月

演題 がん原遺伝子 R a s によるエピゲノム制御を介した転写制御
講師 中山 啓子 先生
東北大学大学院医学系研究科・付属創生応用医学研究センター
がん医学コアセンター 細胞増殖制御分野 教授
日時 平成23年11月25日(金) 17:30～19:00

*いずれも会場は、宮城県立がんセンター大会議室になります。どうぞお気軽にご参加ください。



交通案内

J 桜交
仙南交
自家用車

R 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用
名取駅西口から「県立がんセンター線」(なとりん号)を利用
名取駅西口から「北目上原線」(なとりん号)を利用
仙台南インターからは、国道286号バイパス経由
県道仙台・岩沼線を利用 (所要時間約15分)

地域医療連携室のご案内

地域医療機関の先生方からご紹介を受けた患者さんの診療予約をお取りしてスムーズな受診ができるようにしております。

○受付 午前8時30分～午後5時15分
○TEL (022) 381-5152(直通)
(022) 384-3151(代) 内線115
○FAX (022) 381-1169

宮城県立がんセンター
〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
電話(代表) (022)384-3151 FAX(総務課) (022)381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。



消化器科

消化器科のご案内(概要)



消化器科科長
鈴木 雅貴

消化器科は消化器領域の悪性腫瘍の診断と治療を行っております。現在、臓器によって悪性疾患の診断法や治療手技が高度に専門化されているため、当科の特徴といたしまして消化器科に従事する医師は、肝、胆膵、上部消化管、下部消化管の4つのグループにわかれてそれぞれの担当する臓器の悪性腫瘍の診断、治療に専念しております。外来も毎日の一般の消化器科新患再来の他に、臓器別専門外来も毎日行っており（月、火曜日：肝臓、水曜日：胆膵、木曜日：下部消化管、金曜日：上部消化管）、診断がついている悪性腫瘍の場合にはこちらに直接ご紹介いただいても結構でございます。

診療内容

肝臓グループ

肝癌治療後のfollow-up症例の蓄積増加に伴い、現在は肝腫瘍、特に肝がんを中心とした診断、治療を行っています。治療は肝動脈塞栓術(TAE)、経皮的エタノール局注療法(PEIT)、ラジオ波焼灼療法(RFA)、抗がん剤の経口投与による化学療法等を症例ごとに選択、組み合わせて実施しています。一方、前がん病変であるウイルス性肝炎(B型肝炎、C型肝炎)については、地元医療機関と連携しながら診療を行っており、特にインターフェロン治療により発がんの抑制が確認されています。

胆膵グループ

胆道、膵の悪性腫瘍を中心に診断、治療を行っています。診断には超音波内視鏡検査(EUS)、管腔内超音波検査法(IDUS)、Optical coherence tomography(OCT)、経口胆道鏡(POCS)、経口膵管鏡(POPS)、経皮経肝胆道鏡(PTCS)、等を用い、できるだけ正確な進展度診断を行うようにしております。また膵腫瘍に対しては全例超音波内視鏡下吸引細胞診(EUS-FNAB)を施行し遺伝子解析も行っております。治療は、診断時にすでに手術の適応外となっていることも多く、その場合は外来で化学療法を施行しております。また非切除膵胆道癌に対するステント留置も数多く行っております。

上部消化管グループ

主に食道、胃、十二指腸の悪性腫瘍の診断治療を行っています。早期癌の場合には内視鏡的粘膜剥離術(ESD)や内視鏡的粘膜切除術(EMR)を積極的に行い、食道癌における非切除症例に対しては放射線化学療法を施行しています。その他、頭頸部癌や食道癌における経口栄養摂取困難症例に対し胃ろう増設術(PEG)や、食道静脈硬化療法(EIS)、ステント留置術、等も施行しています。また最近では咽頭表在癌に対する診断も多くあり、これらに対するELPSも東北では最も多く行っております。

下部消化管グループ

大腸及び小腸の悪性腫瘍全般を担当し、特に大腸癌の早期発見、治療に力を入れています。内視鏡検査においては、NBI、色素、拡大内視鏡観察や超音波内視鏡検査、生検を含めた精密検査を随時実施しています。また近年大腸癌に対する腹腔鏡下切除例が増加しており正確な術前診断、適切なマーキングに対応しています。治療においては内視鏡的切除術、内視鏡的止血術、狭窄拡張術、経肛門的イレウスチューブ留置術、等を施行しており、さらには名取市大腸癌集権の二次検査も担当しております。



今後の連携

将来的には胃癌、大腸癌、肝癌を中心に、地域連携バスを用いて連携医療機関と共同してfollow-upしていく方向になるかと思っておりますので宜しくお願い申し上げます。

宮城県立がんセンター診療科・部門紹介

病院ボランティア「ひだまり」活動

ボランティアリーダー
前田 利子

宮城県立がんセンターで、病院ボランティア「ひだまり」が活動を開始して10年になりました。そこで、活動の原点に戻りいろいろな質問に答えながら、「ひだまり」をご紹介します。



ボランティア Q&A

ボランティア「ひだまり」はどんな人がいるのですか？

ごく普通の人が自分の意志で、無償で活動しています。1年毎の更新で人数の変化はありますが、現在の登録者数は約80名です。平均年齢は50歳後半です。

ボランティア応募の理由は？

「自分の得意分野を生かし、人の役に立ちたい。」「仲間づくり。」「お世話になったがんセンターに恩返しをしたい。」など様々です。

がんセンターでの活動内容は？

【外来での活動】
外来受付・診療案内・車椅子介助・荷物入れカート貸出・植物手入れ・外来用図書整理

【病棟での活動】
病棟移動図書・CD貸出・ソーイング(手作り帽子・ネックエプロン・巾着袋・エコバック)・押し花しおり作り

【緩和ケア病棟での活動】
中庭手入れ・花活け・ティーサービス・朗読・季節の行事手伝い・絵手紙教室・入浴介助

【イベント活動】
ギャラリー展・ロビーコンサート・ロビーコーヒータム・絵手紙講習会・機関紙発行・研修会

ボランティアの目的とは？

がんセンターのボランティア導入は「ボランティア規程」にあるように、労働力不足の肩代わりではなく患者さんの生活の質の向上のためであり、活動を通しボランティア自身のQOLも高めていくことです。

病院ボランティアとして心がけていることは？

患者さんやご家族の方々に、穏やかな安らぎを感じていただくためと、病院の雰囲気をもっと爽やかに届けられるよう、笑顔で心を込めて活動しています。そして、守秘義務を守ることも大事です。

